

- * 「あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」（ヨハネ8：31）「自由」とは、何かをしようとする時に、邪魔するものや束縛する者がいないということ。主イエスが言われた「自由」とは何を意味するか。「彼らはイエスに答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、決してだれの奴隷になったこともありません。あなたはどのように、『あなたがたは自由になる』と言われるのですか。」ユダヤ人たちは、自由とは奴隷の反対で、だれの奴隷になったこともないという。当時のユダヤは政治的にはローマ帝国の属国であったし、それまで外国の勢力に束縛され続けて来た。しかし、彼らは、偶像の神々を拝んでいる異邦人たちとは違って、信仰の模範者であるアブラハムという強い味方がいる、というのである。
- * 「イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。罪を行っている者はみな、罪の奴隷です。」（8：34）主イエスは、自由とは「罪の奴隷」から解放されていることであると言われる。そして、ユダヤ人たちも、アブラハムの子孫であるという特権に安住し、律法という伝統や儀式や慣習にこだわり続けて来た。そのことが罪であり、また、個人で犯す罪の根本的解決がない、すなわち、赦しと永遠のいのちが与えられていないのだ、と言われる。
- * 罪からの自由を得るためには「真理」を知ることが必要である。一般的には、「真理」とは本当のこと、嘘偽りのないことである。聖書では「真理」「まこと」「真実」などと訳されているこのことばは、すべて神と関係のあるものごとである、なぜなら、神以外には100パーセント本当の、偽りのないものは存在しないからである。そして、主イエスが「真理」ということばが使われる場合は、「イエスの死と復活に関する真理」すなわち「救い」の真理のことである。「わたしが、道であり、真理であり、いのちなのです」（ヨハネ14：6）と言われたように、イエスが「真理」そのものなのである。
- * 私たちが「真理」を知って「自由」になるためには、「もし、あなたがたが、私のことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。」（8：31）イエスを救い主と信じて生涯イエスに従って生きることが、本当の「自由」すなわち「魂の自由」を得るために必要なことである。